

150 環状 20 番染色体症候群

■ 基本情報

氏名								
姓(漢字)	名(漢字)							
姓(かな)	名(かな)							
住所								
郵便番号	住所							
生年月日等								
生年月日	西暦	年	月	日	性別 1.男 2.女			
出生市区町村								
出生時氏名 (変更のある場合)	姓(漢字)	名(漢字)						
	姓(かな)	名(かな)						
家族歴								
近親者の発症者の有無	1.あり 2.なし 3.不明 発症者続柄 1.父 2.母 3.子 4.同胞(男性) 5.同胞(女性) 6.祖父(父方) 7.祖母(父方) 8.祖父(母方) 9.祖母(母方) 10.いとこ 11.その他()							
両親の近親結婚	1.あり 2.なし 3.不明 詳細:							
発病時の状況								
発症年月	西暦	年	月					
社会保障								
介護認定	1.要介護 2.要支援 3.なし	要介護度		1	2	3	4	5
生活状況								
移動の程度	1.歩き回るのに問題はない 2.いくらか問題がある 3.寝たきりである							
身の回りの管理	1.洗面や着替えに問題はない 2.いくらか問題がある 3.自分でできない							
ふだんの活動	1.問題はない 2.いくらか問題がある 3.行うことができない							
痛み/不快感	1.ない 2.中程度ある 3.ひどい							
不安/ふさぎ込み	1.問題はない 2.中程度 3.ひどく不安あるいはふさぎ込んでいる							

■ 診断基準に関する事項

症状の概要、経過、特記すべき事項など

--	--

A. 症状

1. 非痙攣性てんかん重積状態: (動搖性の意識障害や認知障害を示し、口周囲などのミオクローヌスを伴うことがある。1回の持続は数分から数十分で、1時間以上続くことは少ない。発作は頻回でしばしば日に何回もみられる。)	1.あり 2.なし 3.不明
2. 小型または大型の運動発作: (小児期には自動症や運動現象を伴う短い複雑部分発作や幻視や恐怖感などがみられることがある。夜間睡眠時に多い。全身痙攣発作が見られることもある。)	1.あり 2.なし 3.不明
3. 精神遅滞や衝動性・攻撃性などの行動障害を呈する	1.あり 2.なし 3.不明

B. 検査所見

1. 血液・生化学的検査所見: 特異的所見なし	1.該当 2.非該当 3.不明
2. 画像検査所見: 特異的所見なし	1.該当 2.非該当 3.不明
3. 生理学的所見: 脳波では高振幅徐波や鋭波が単発あるいは短い連続で頻回に出現し、前頭・側頭部に優位を示したり、側方性を示すこともあるが、容易に両側化する。小児では脳波異常が乏しいこともある。発作時の脳波は長時間持続する両側性の高振幅徐波であり、その周波数はしばしば変動し、小棘波や棘徐波複合が混在する。	1.該当 2.非該当 3.不明

C. 鑑別診断

以下の疾病を鑑別し、全て除外できる。除外できた疾患には□を記入する。	1. 全て除外可 2. 除外不可 3. 不明
□レノックス・ガストー症候群 □前頭葉てんかん □非痙攣性てんかん重積状態を示す他のてんかん □非てんかん性心因性発作	

D. 遺伝学的検査

遺伝子・染色体検査の実施	1. 実施 2. 未実施
実施した場合、異常がある項目に□を記入する	
□環状 20 番染色体	
備考 ()	

※その他の遺伝学的検査を実施した場合や詳細な所見の記載が必要な場合には備考欄に記入する

<診断のカテゴリー> (該当する項目に□を記入する)

□症状(A-1、2)および検査所見(B-3)から本症候群を疑い、染色体検査で確定
--

■ 臨床所見 (該当する項目に□を記入する)

環状染色体の割合	() %
奇形	1.あり 2.なし 3.不明
ありの場合その詳細 :	
併存症	1.あり 2.なし 3.不明
ありの場合その詳細 □知的障害 (□軽度 □中等度 □重度 □最重度) □精神症状 □外表奇形 □神経症状 □その他	
社会生活状況	1.該当 2.非該当 3.不明
□就労/学生 (一般) □就労/学生 (障害) □就労訓練 □生活介護 □家事 □無職 □施設入所 □入院	
全身けいれん発作	1.あり 2.なし 3.不明
有効であった薬剤 : 薬剤名 ()	1.あり 2.なし 3.不明

■ 重症度分類に関する事項 (該当する項目に□を記入する)

精神保健福祉手帳診断基準における「G40 てんかん」の障害等級判定区分

イ. 意識障害はないが、随意運動が失われる発作	□年に2回未満	□年に2回以上かつ月に1回未満	□月に1回以上あり
ロ. 意識を失い、行為が途絶するが、倒れない発作			
ハ. 意識障害の有無を問わず、転倒する発作	□年に2回未満	□年に2回以上かつ月に1回未満	□月に1回以上あり
ニ. 意識障害を呈し、状況にそぐわない行為を示す発作			

精神症状・能力障害二軸評価 (2) 能力障害評価

□	1. 精神障害や知的障害を認めないか、または、精神障害、知的障害を認めるが、日常生活および社会生活は普通に出来る
□	2. 精神障害、知的障害を認め、日常生活または社会生活に一定の制限を受ける
□	3. 精神障害、知的障害を認め、日常生活または社会生活に著しい制限を受けており、時に応じて支援を必要とする
□	4. 精神障害、知的障害を認め、日常生活または社会生活に著しい制限を受けており、常時支援を要する
□	5. 精神障害、知的障害を認め、身の回りのことはほとんど出来ない

■ 人工呼吸器に関する事項 (使用者のみ記入)

使用の有無	1.あり		
開始時期	西暦 年 月	離脱の見込み	1.あり 2.なし
種類	1.気管切開口を介した人工呼吸器 2.鼻マスク又は顔マスクを介した人工呼吸器		
施行状況	1.間欠的施行 2.夜間に継続的に施行 3.一日中施行 4.現在は未施行		
生活状況	食事 整容 入浴 階段昇降 排便コントロール	□自立 □部分介助 □全介助 □自立 □部分介助/不可能 □自立 □部分介助/不可能 □自立 □部分介助 □不能 □自立 □部分介助 □全介助	車椅子とベッド間の移動 トイレ動作 歩行 着替え 排尿コントロール □自立 □軽度介助 □部分介助 □全介助 □自立 □部分介助 □全介助 □自立 □軽度介助 □部分介助 □全介助 □自立 □部分介助 □全介助 □自立 □部分介助 □全介助

医療機関名

指定医番号

医療機関所在地

電話番号

()

医師の氏名

印 記載年月日：平成 年 月 日 ※自筆または押印のこと

- ・病名診断に用いる臨床症状、検査所見等に関して、診断基準上に特段の規定がない場合には、いずれの時期のものを用いても差し支えありません。
(ただし、当該疾病の経過を示す臨床症状等であって、確認可能なものに限ります。)
- ・治療開始後における重症度分類については、適切な医学的管理の下で治療が行われている状態で、直近6ヵ月間で最も悪い状態を記載してください。
- ・診断基準、重症度分類については、「指定難病に係る診断基準及び重症度分類等について」(平成27年5月13日健発0513第1号健康局長通知)を参照の上、ご記入ください。
- ・審査のため、検査結果等について別途提出をお願いすることがあります。